

**第15期中期経営計画**

**最終評価一覧**  
**(大科目・中科目)**



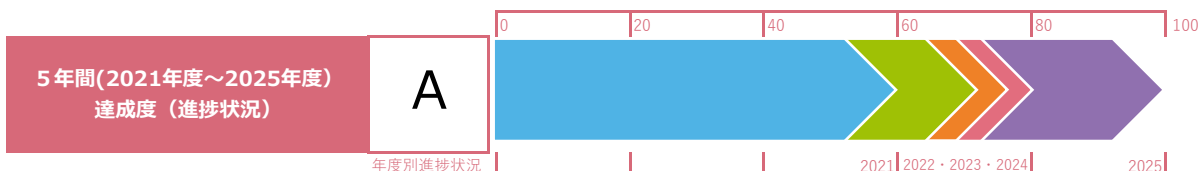
学校法人 茨城キリスト教学園

戦略  
I

広報戦略と  
募集活動に  
よる入学者の  
確保

- ・広報および募集活動の質を向上させ、入学定員を確保する。
- ・学園の文化・教育・研究を伝える広報戦略を強化する。

達成度(進捗状況) 【評価基準】	[S]100%達成している	[A]81%~99%達成している
	[B]61%~80%達成している	[C]41%~60%達成している
	[D]21%から40%達成している	[E]1%から21%達成している
	[F]0%、もしくは該当しない	



## 大科目：5年間の実行結果・評価説明

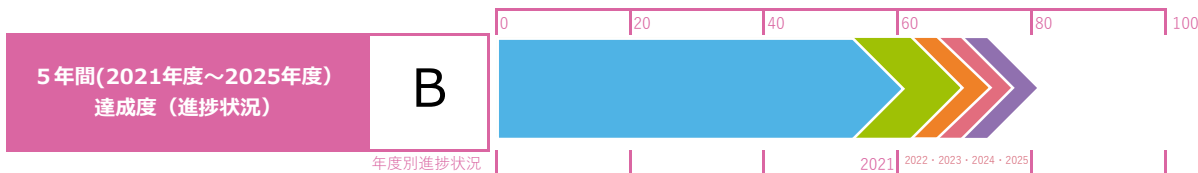
大学	情報共有・管理のためのシステム導入、継続的な情報発信、SNSの活用により、18歳人口の減少下でも入学者を確保できている。学内連携をさらに強化するとともに、本学のブランドを磨き上げる必要がある。
認定こども園	附属園としての特色である茨城キリスト教大学との連携を広報に活かし、入園者の確保につなげることができた。一方で、年々増加する保育ニーズに対応した利用定員の設定と受け皿づくりは、今後の課題である。
中学校 高等学校	ホームページの更新、中学校や塾への訪問などによる広報活動を強化し、学園の環境の良さと魅力を大いにアピールできた。
法人事務局	豊かな自然と歴史を基盤に、新校舎や立地優位性、周年事業を活用した広報を展開し、ブランド力強化を通じて入学者確保を推進した。
キリスト教 センター	学園の宝でもあるキアラ館の50周年という節目を生かし、記念企画や記念行事を開催するとともに、その魅力を広報活動に大いに活用した。

<b>1. 学生募集に効果的な広報活動と入試制度の再構築</b>		<b>B</b>	
<b>大学</b>	継続的な情報発信、SNSの活用、業者コンテンツの活用などで認知度拡大が図られた。また、接触者情報をリアルタイムに共有・管理ができるようになった。今後さらに学部学科と入試広報の連携を強化する必要がある。		
<b>2. 園児の安定的確保と広報誌の強化</b>		<b>B</b>	
<b>認定こども園</b>	せいじ園・みらい園合計の園児数は、経営目標とする入園者数を上回ることができた。年間を通して、X、ホームページでの広報や子育て支援を充実させ、入園者の確保につなげることができた。		
<b>3. 学校の魅力の情報発信力強化</b>		<b>A</b>	
<b>中学校 高等学校</b>	受験希望者や地域社会に対してはSNSを中心とした広報活動を展開し、オープンキャンパスはもちろん、学園祭でも多くの人を集めることができた。		
<b>4. 豊かな自然、歴史と伝統をふまえた革新的な学園ブランド構築</b>		<b>A</b>	
<b>大学</b>	学科と入試広報部の連携により、情報発信力は向上した。しかしブランドの磨き上げに課題が残る。茨城大学は「スチューデントサクセス」を軸とした研究・教育活動の系統的整理と広報を進めている。本学も見習いたい。		
<b>認定こども園</b>	自然豊かな学園キャンパス内での散歩や大学施設の活用をX、ホームページで広報することにより、総合学園の一部局としてのブランド価値を、保護者のみならず、より多方面に浸透させることができた。		
<b>中学校 高等学校</b>	オープンキャンパスでは総合学園の環境と魅力を十分に伝えられた。また、クリスマスマーケットやツリー点灯式ではクリスチャンスクールとしての存在を大いにアピールすることができた。		
<b>法人事務局</b>	豊かな自然と80年の歴史を基盤に、新校舎・駅近立地や周年事業を活用した広報を推進し、革新的な学園ブランドの構築に向けた実施体制を整備した。		
<b>キリスト教 センター</b>	学園のシンボルであるキアラ館が建築50周年を迎えたことを活かし、記念企画を開催し、記念パンフレット等を作成した。さらに、各学校や部署の広報に建築物としても美しいキアラ館を多用した。		




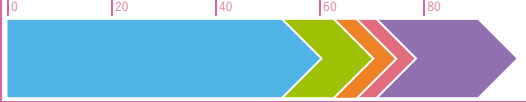
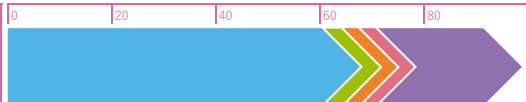
・隣人愛の精神を持ち、主体的に学び、次世代へ切り拓く人間を育成する教育を行う。  
 ・多様性のある研究活動を推進し、地域・世界への貢献を果たす。

達成度(進捗状況) 【評価基準】	[S]100%達成している	[A]81%~99%達成している
	[B]61%~80%達成している	[C]41%~60%達成している
	[D]21%から40%達成している	[E]1%から21%達成している
	[ - ]0%、もしくは該当しない	



### 大科目：5年間の実行結果・評価説明

大学	内部質保証体制を整えてきた5年間だったと言える。そのサイクルがまわりはじめたことで、今後は「特色ある教育・研究活動」をPLANに加えれば、CHECKとACTIONにつながり堅牢となるものと期待する。
認定こども園	建学の理念に基づき園児一人ひとりを大切にした教育・保育を継続した。また、茨城キリスト教大学、茨城キリスト学園高等学校、茨城キリスト学園中学校と多様な形で連携し、園児に多くの学びや体験の場を提供した。
中学校 高等学校	建学の精神に基づいた教育活動を実践するため、教職員の研修を強化した。また、総合学園の強みを生かし、他部局との連携を図った。
法人事務局	オンラインと対面を併用した研修により教職員の資質向上と相互理解を促進し、教育・研究活動の高度化につながる人材育成を推進した。
キリスト教 センター	学園のキリスト教教育の中心であるチャペル礼拝を充実させ、より多くの参加者を得るためのオンライン配信を充実させた。それに伴う様々な工夫も駆使した。

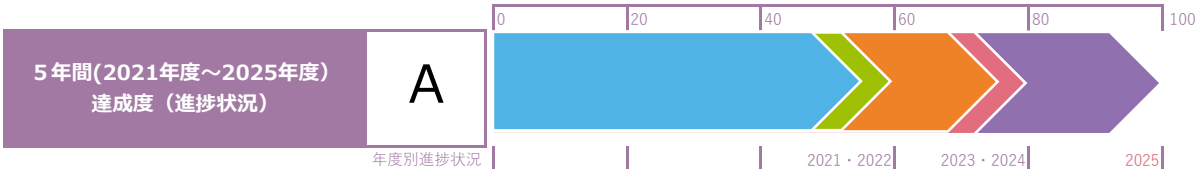
<b>1. 建学の理念に基づいた教育</b>		<b>B</b>	
大学	未来教養学環を開設し、建学の理念に基づいた教養教育を行う体制が全学的に整った。地域・国際社会への貢献を見据えた教育も成果を上げた。今後は学園内が連携し特色ある教育を推進する必要がある。		
認定こども園	建学の理念に基づき園児一人ひとりを大切に教育・保育が評価されている。保育者一人ひとりが、日々の祈りや聖話の時間を大切に、キリストの愛の精神を伝えている。		
中学校 高等学校	従来の放送礼拝に加え、讃美礼拝や生徒主体の礼拝などにも取り組み、充実した実りある礼拝が実践できた。生徒主体のボランティア活動も推進した。		
<b>2. 教育の質保証</b>		<b>A</b>	
大学	2027年度の認証評価に向けた体制をほぼ整えた。2025年度分の自己点検・評価で最終的な精査を行い、認証評価機関に提出する2026年度分の自己点検・評価報告書を万全のものとするための体制が整った。		
<b>3. 学生支援体制の充実</b>		<b>A</b>	
大学	本学の学生支援体制はもともとそれほど貧弱ではないが、対応する教職員の労力がより有機的に奏功するようになるという観点でウェルネス・センター構想には皆が期待している。		
<b>4. 教職員研修の充実</b>		<b>A</b>	
大学	研修課題の増加に研修実施が追いついていない。グループワークなども必要だが充実しているとは言い難い。またFD/SDに先んじて、自己点検・評価で「課題」を抽出する必要がある。		
認定こども園	年間を通して教職員一人ひとりが研修に参加し、学びを深めることができた。また、2025年度は新たな目標である（ICT活用）に向けた研修にも積極的に参加することができた。		
中学校 高等学校	教職員研修の充実のための研修プログラムを増やし、多くの教員が参加した。		
法人事務局	オンラインと対面を併用した研修を充実させ、多様な参加を促進するとともに、若手・中堅による発表機会を通じて教職員間の相互理解と資質向上を図った。		

<p><b>5. 多様な研究の推進</b></p>	<p>A</p>	
<p>大学 多様な研究として、産学連携の実施や研究終了後の成果発表等これまでの活動を保ちながらも、新たな科研費の採択がなされた。また、学術センターを中心に科研費獲得のための積極的な取り組みが推進された。</p>		
<p><b>6. 大学と連携した特色ある保育の推進</b></p>	<p>A</p>	
<p>認定こども園 「体育教育」「英語教育」に加え、看護学部による看護体験や地域・国際交流センターを通じた留学生との交流会など、大学との連携を深めることができた。今後も継続していきたい。</p>		
<p><b>7. 大学生の実習受け入れ態勢の充実</b></p>	<p>A</p>	
<p>認定こども園 子どもに関わる職業を目指す学生の学びの場として、茨城キリスト教大学文学部児童教育学科幼児保育コースの学生を中心に様々な学部・学科の実習を受け入れた。園児にとっても多様な人と触れ合う機会となった。</p>		
<p><b>8. 中高一貫教育の充実と発展</b></p>	<p>B</p>	
<p>中学校 高等学校 高校2年次からの「一貫特進SAクラスと高入特進SGクラスの合併」を軌道に乗せた。また、高校の春の短期留学先をカナダに変更した。</p>		
<p><b>9. 法人内中大連携、高大連携の推進</b></p>	<p>A</p>	
<p>中学校 高等学校 茨城キリスト教大学教員を招聘し、探究活動、職業ガイダンス、模擬授業ガイダンス、食育講座、いのちの教育を行った。</p>		
<p><b>10. チャペルのあるキャンパス・ライフ</b></p>	<p>B</p>	
<p>キリスト教 センター 学園の根幹であるキリスト教教育の柱としてチャペル礼拝を充実させた。具体的には、通常のチャペルに加えて、企画チャペルを多く開催した。また、配信の精度も高め、オンライン参加者に配慮した。</p>		






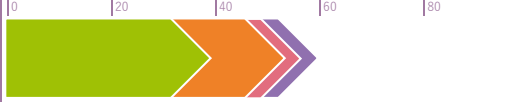
- ・地域に深く根ざし、国際社会に貢献する学園のブランド力を確立する。
- ・地域との連携活動を強化する。世界とつながり世界に学ぶ教育を深化させる。

達成度(進捗状況) 【評価基準】	[S]100%達成している	[A]81%～99%達成している
	[B]61%～80%達成している	[C]41%～60%達成している
	[D]21%から40%達成している	[E]1%から21%達成している
	[－]0%、もしくは該当しない	



### 大科目：5年間の実行結果・評価説明

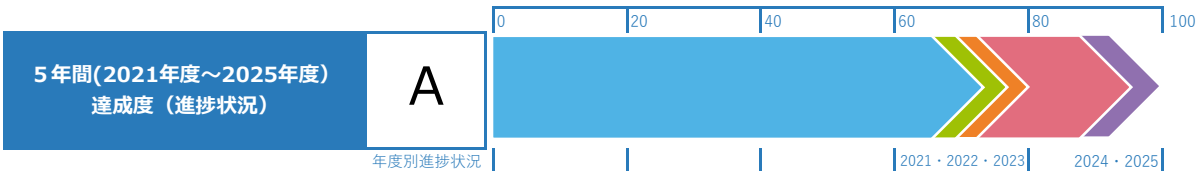
大学	様々な地域貢献活動を通して地域貢献活動を実施した。海外派遣学生も増加傾向にあり、海外提携校から多くの受入留学生も来学した。インターン生の受入も継続的に行われており、学内のグローバル化につながった。
認定こども園	地域連携活動およびグローバル教育活動ともに積極的に取り組んだ。グローバル教育アシスタント（留学生）との交流を通して多くの学びを得ることができた。一方で、保育者の国外研修実施は引き続き課題である。
中学校 高等学校	地域連携や国際交流を強化しながら実施した。
キリスト教 センター	内向きになりがちな教育機関において大切な外向きの働きの一つとして、キャロリングや讃美奉仕を実施した。さらに、地域貢献として、学園クリスマスやチャペル・コンサートを開催した。

<b>1. 地域社会貢献への積極的活動実施</b>		<b>B</b>	
大学	リカレントを含め、多くの講座に講師派遣を行った。産官学の連携事業も実施された。『IC with U』や「常陸乃食 魅力向上プロジェクト」など学科を跨いだ地域貢献活動も複数行った。		
認定こども園	園から積極的に交流の機会を持てるよう、地域連携に取り組んだ。日立市主催の研修では、せいじ園・みらい園それぞれの学区の保育園・幼稚園・小学校で情報交換を行い、架け橋カリキュラムを作成することができた。		
キリスト教センター	「世の光」、「地の塩」として、地域社会や近隣諸教会に奉仕すべく、クリスマス・キャロリングや讃美奉仕を行なった、また、地域貢献として、外部にも開かれたコンサートや講演会を多数開催した。		
<b>2. グローバル化の推進</b>		<b>B</b>	
大学	海外留学・海外研修派遣を促進させるために説明会や国際交流活動や留学に関する報告書のHPの掲載、危機管理対策も実施した。学内のグローバル化にむけた活動も行った。		
認定こども園	教職員の海外研修は実施できていないが、グローバル教育アシスタント（留学生）との交流を通して学びを深めることができた。海外研修については、状況が整い次第、実施していきたい。		
中学校 高等学校	従来の中学校・高等学校における短期留学制度に加え、2024年度には中学シンガポール短期留学を、2025年度には高校カナダ短期留学を開始した。		
<b>3. 地域社会との連携を推進し、外部人材および資源の活用</b>		<b>B</b>	
中学校 高等学校	外部人材による探究活動への評価や助言、国立大学による部活動への指導を受けるなど地域連携を強化した。		
<b>4. 海外のキリスト教系学校学生との交流</b>		<b>C</b>	
キリスト教センター	国際交流の一環として、留学生等によるチャペルを毎年実施した。また、海外講師による英語チャペルを随時開催した。		



- ・キャリア教育、就職・進学支援の向上を図り、学生・生徒の夢の実現に寄与する。
- ・学生・生徒の卒業後の満足度を上げる。

達成度(進捗状況) 【評価基準】	[S]100%達成している	[A]81%~99%達成している
	[B]61%~80%達成している	[C]41%~60%達成している
	[D]21%から40%達成している	[E]1%から21%達成している
	[ ]0%、もしくは該当しない	



## 大科目：5年間の実行結果・評価説明

大学	キャリア教育、教員採用試験・国家試験においては確実な成果が示された。今後、より成果の充実を図るために各組織の連携強化および、全学的に卒業生と在学生・教員とのネットワークの多様化と構築を促進してゆく。
中学校 高等学校	進路ガイダンスや宿泊行事を通してキャリア教育を実践するなど、進路指導を強化した。

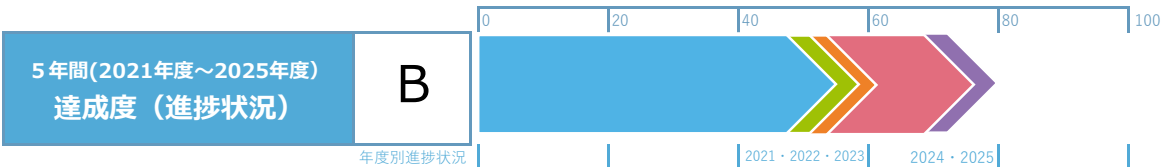
<p><b>1. 進路支援に対する組織的な支援体制の強化</b></p>	<p>A</p>	
<p>大学</p>	<p>教職支援センターの設置、体系的キャリア教育の継続により教育力の向上が図れ、教員採用試験や国家試験では多数の合格者を輩出した。また、学園祭や記念行事、ホームカミングデーから卒業生との連携を推進した。</p>	
<p><b>2. キャリア教育の実践と充実</b></p>	<p>A</p>	
<p>中学校 高等学校</p>	<p>進路学習指導や宿泊行事において専門スキルを持つ外部人材を積極的に活用し、キャリア教育活動を実践した。</p>	
<p><b>3. 学習指導と進路指導の強化</b></p>	<p>B</p>	
<p>中学校 高等学校</p>	<p>国立大学が実施する公開講座について中高生に周知し、受講を促すことで、進路実現への意識高揚に努めるとともに、手厚い個別指導を実施した。</p>	



バランスのとれた  
財務基盤の構築

- ・学生・生徒・園児数を継続的に確保する。
- ・環境変化に対応する事業と財務のバランスを図り財務基盤を強化する。

達成度(進捗状況) 【評価基準】	[S]100%達成している	[A]81%~99%達成している
	[B]61%~80%達成している	[C]41%~60%達成している
	[D]21%から40%達成している	[E]1%から21%達成している
	[-]0%、もしくは該当しない	



## 大科目：4年間の実行結果・評価説明

大学	財務基盤のバランスをみれば、収入のための施策が依然として弱く、支出が多い。前者では「社会人の学び直し」に対応すること、後者ではDX推進による職務負担軽減と人件費削減が急務である。
認定こども園	学納金の見直しや公的補助金の活用により、収入の多様化に努めた。経営目標である入園者数は確保できたが、今後も経費削減の方策を継続していく必要がある。
中学校 高等学校	中学校、高等学校とも入学定員を確保できていない。2021年度から2025年度にかけて、2回の学納金改定を実施したものの財政基盤の安定には至っておらず、さらなる魅力ある学校づくりが求められる。
法人事務局	入学者確保を背景に予算配分を最適化するとともに、収入多様化と経費節減で収支均衡を維持し、施設整備・安全対策も含めた持続的な財務基盤の構築を図った。
キリスト教センター	キリスト教センターは、直接的に学園財政に関わる組織ではないが、本学園の魅力の一つであるキリスト教教育を充実を図るために、そこで働く学園教職員を対象とした研修や啓発に尽力した。

<b>1. 組織ガバナンスの強化</b>	<b>A</b>	
大学	合意形成がスムーズに進まない場面が多々生じるが、異なる意見が適切なかたちで対立することはむしろ必要である。本学はその意味で上位下達ではない、むしろ自由闊達な学風に根差したガバナンスを実現している。	

<b>2. 予算配分の適正化</b>	<b>B</b>	
大学	「経営目標とする入学者数」を、大学全体として定員割れを来すことなく確保することができた。そのための予算配分も、結果からすれば適正だったと言える。	
認定こども園	こども園全体として経営目標とする入園者数を確保することができた。	
中学校 高等学校	第一志望者数は維持できている。学業特待生および体育特待生については、選考基準の見直しを行ってから複数年が経過しており、2026年度入試においても奨学費支出の抑制を図ることができた。	
法人事務局	各校の魅力度向上と募集活動により入学者数を安定確保し、人口減少下でも経営目標達成を支える基盤を維持し、予算配分の適正化に資した。	
キリスト教 センター	本学園の「キリスト教主義」を魅力の一つと捉え、学生・生徒のみならず、学園教職員に建学の理念に立ち返る意識を高めるために、研修会や創立記念礼拝を実施した。	

<b>3. 収入の多様化と経費節減による財政基盤強化</b>	<b>B</b>	
大学	学環設置を除き、収入の多様化を図る施策、とりわけ寄附金収入・公的補助金収入に加え、18歳人口に限らず多様な世代に対して教育財を提供し対価を得ていくという課題は達成できていない。	
認定こども園	学納金収入の確保に加え、収入の多様化および経費削減の方策を継続していく。	
中学校 高等学校	中学校、高等学校ともに財政基盤の安定を目的として、2024年度および2026年度入学生から学則改定（学納金改定）を実施した。	
法人事務局	寄附金等による収入多様化と安定的な学納金収入の確保に加え、継続的な経費節減により収支バランスを維持し、財政基盤の強化を図った。	
キリスト教 センター	キアラ館は、建築学的にも高い評価を受けており、芸術的にも優れた建物であることから、寄附等への理解と協力を呼びかけた。	

<b>4. 中長期修繕計画の策定と必要資金の確保</b>	<b>A</b>	
法人事務局	既存施設の更新・インフラ整備を進めるとともに、各種調査や施設管理台帳の活用により年次修繕計画の具体化を図り、中長期修繕計画策定と資金確保の基盤を整備した。	

<b>5. 安心と安全に基づく環境整備</b>	<b>A</b>	
大学	避難訓練を毎年行い、いざというときに学生を守るため、特に教職員がどう行動するかについて繰り返し確認しながら、防犯意識が薄れることを防いでいる。防犯カメラの設置数も県内随一の規模に達したと思われる。	
認定こども園	せいじ園・みらい園ともに施設や園庭遊具の安全点検に努めた。また、電子錠や防犯カメラの設置等、ハード面の充実が図られ、利用者より好評を得た。	
中学校 高等学校	防災避難訓練は毎年行い、また、原子力災害を想定して備蓄品も毎年更新している。防犯カメラも必要に応じて活用している。	
法人事務局	防災訓練や危険箇所の把握を通じた意識啓発と、不審者対策や情報共有の強化により危機管理体制を整備し、安心・安全な教育環境の確保を図った。	
キリスト教 センター	学園の防災訓練にも積極的に参加し、管財課と連携して、安全管理を徹底した。	

## 第15期中期経営計画 部局別総括

部局名	総括
大学	<p>2021～2025年度は、少子化の進行や新型コロナウイルス感染症への対応など、計画策定時に想定し得なかった環境変化の中で大学を運営する必要に迫られた。その状況下で、各組織が計画に基づくアクションプランに主体的に取り組み、教育内容・教育環境の改善、学生支援の充実、情報発信の工夫など一定の成果をあげた。内部質保証の観点からPDCAサイクルを意識した取り組みも徐々に定着した。</p> <p>一方、当初の評価指標が「計画がどこまで進められたか」という活動量指標（手段）でほぼ占められ、「学生・教職員・地域社会にどのような成長や便益がもたらされたか」という成果指標（目標）の設定に乏しかったため、結果として本来的な意味での成果については評価未遂、ないしは各評価者らの主観に拠る定性的判断となった。次期計画は上述した意味での成果指標を軸とし、内部質保証を実質的に機能させる実効性の高い計画として展開していく必要がある。</p>
こども園	<p>出生数の低下により少子化に歯止めがかからない5年間ではあったが、経営目標とする入園者数を確保することができた。ホームページ、入園案内、SNSなどを活用し、茨城キリスト教大学と連携した教育（看護・体育・英語・音楽など）に取り組む様子を発信したことで同大学附属認定こども園ならではの特色ある活動として好評を得た。茨城キリスト教大学の附属認定こども園としてのブランド価値を、広報等を通じて強化し、少しずつではあるが浸透しつつある。</p> <p>また、地域の小学校・中学校・高齢者施設への訪問やお祭りへの参加など、積極的に地域に出向くとともに、中学生の職場体験、高校生のインターンシップの受け入れによる交流も深めた。</p> <p>さらに、茨城キリスト教大学地域・国際交流センターを介した留学生との交流会やグローバル教育アシスタントの導入は、異文化交流につながり、子どもたちが世界に目を向けるきっかけとなった。</p> <p>年々変化する利用者ニーズに対応した利用定員の設定や収入の多様化は今後も継続的な課題である。</p>
高校 中学校	<p>ホームページの更新、中学校や学習塾への訪問活動を強化するなど広報活動の充実を図り、学園の教育環境の良さと魅力を大いにアピールできた。</p> <p>また、建学の精神に基づいた教育活動を実践するため、教職員の研修の充実に取り組み教育の質の向上を図った。併せて、総合学園の強みを生かし、他部局との連携を推進することで教育活動の幅を広げることができた。一方で中高一貫のシステムについては再構成する必要がある。</p> <p>教育活動面では地域連携や国際交流を強化するとともに、進路ガイダンスや宿泊行事を通してキャリア教育を実践するなど、進路指導の充実に努め、一定の成果を上げてきた。</p> <p>財政面においては、この5年間、適切な時期に学納金改定を行ってきたものの、中高の財政基盤は厳しい状況にある。今後は、教育内容の質的向上と学校としての魅力を一層高めることで、中学校・高等学校ともに入学定員の安定的確保を図る必要がある。</p>
法人 事務局	<p>第15期中期経営計画において法人事務局は、当初は一部項目で検討段階に留まる取組も見られたが、年次を追うごとに改善と具体化を進め、最終的には大半の小科目・中科目において評価Aを達成した。広報面では新校舎竣工や周年事業を契機にブランド構築を推進し、入学者確保に寄与した。教育面ではオンラインと対面を融合した研修により教職員の資質向上を図った。財務面では入学者確保を背景に安定収入を維持しつつ、寄附金等による収入多様化と経費節減を進め、収支均衡を確保した。さらに施設整備や中長期修繕計画の具体化、安全対策の強化により、持続可能な経営基盤の確立に至った。</p>

【第15期中期経営計画総括】

第15期中期経営計画 部局別総括

部局名	総括
キリスト教センター	<p>「茨城キリスト教学園」という名称の中心には、「キリスト教」がある。本学園の根幹としてのキリスト教主義と言えよう。これなくして「茨城キリスト教学園」はあり得ない。・・・学園キリスト教センターは、学園組織の中では決して大きな部署ではないが、その中心であるキリスト教教育を担っているという大きな志を持っている。また、必ずしも、キリスト教センターは学園の経営や財政に直接関与する部署ではないものの、学園の本質としてのキリスト教教育の柱の一つである礼拝やチャペル、およびキリスト教教育活動を担うことを通して、学園全体の教育の土台に関わっていると考えている。第15期においては、本学園のキリスト教教育の象徴であり、学園の宝とも言える「キアラ館」が竣工50周年という大きな節目を迎えた。その記念企画を実施し、記念行事を開催できたことは喜びでもある。また、チャペル礼拝やキリスト教講演会、キアラ館コンサートなど、様々なキリスト教教育活動に関われたことは感謝でもある。・・・なお、「キアラ館」はあくまでも器(入れ物)であるので、その器を映えさせるべく、今後(第16期以降)は、その中身としてのキリスト教教育活動をより充実させていく必要がある。</p>

# 学校法人 茨城キリスト教学園

## ■ 茨城キリスト教大学大学院

文学研究科 英語コミュニケーション専攻  
生活科学研究科 食物健康科学専攻  
心理学専攻  
看護学研究科 看護学専攻

## ■ 茨城キリスト教大学

文学部 文化交流学科  
現代英語学科  
児童教育学科 (児童教育コース・幼児保育コース)  
生活科学部 心理福祉学科  
食物健康科学科  
看護学部 看護学科  
経営学部 経営学科  
未来教養学環

## ■ 茨城キリスト教学園高等学校

全日制普通科

## ■ 茨城キリスト教学園中学校

完全中高一貫6年制教育

## ■ 茨城キリスト教大学附属認定こども園

せいじ園・みらい園

## 第15期中期経営計画 2021年4月1日開始

Peace Truth LOVE  茨城キリスト教学園

〒319-1295 茨城県日立市大みか町6-11-1

TEL: 0294-52-3215(代)

FAX: 0294-52-3493

<https://www.icc.ac.jp/edu/>

